



MIYOSHI
CENTRAL HOSPITAL

第44号

2025年5月

市立三次中央病院だより

花みずき



新しく47名の仲間が増えました!

基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され
親しまれる病院を目指します

病院長就任挨拶



院長 立本 直邦
たつもと なおくに

令和7(2025)年4月1日付で第9代市立三次中央病院 病院長を拝命いたしました立本直邦です。私は、平成11(1999)年4月に外科診療医として、当院に赴任し、外科医長、診療部長、副院長を経験させていただきました。26年目の春を迎えるにあたり、たいへんな重責を担わせていただくことになりました。

当院は、昭和27(1952)年6月、当時の双三郡の17町村により設立された双三中央病院組合によって開設され、その後、昭和44(1969)年5月に全面改築(建て替え)、更には、平成6(1994)年9月に現在地に新築移転を行い、現在に至っております。病院名称も、開設時は『双三中央病院』、新築移転時から『公立三次中央病院』、そして、平成

16(2004)年の平成の市町村合併時から現在の『市立三次中央病院』と3度の変遷を経ております。診療科・病床数は、開設時…6科・32床の診療所とあまり変わらない規模の病院から、改築時…12科・275床、新築移転時…18科・350床、そして現在は、標準

診療科…30科、医師数…88名、非常勤職員を含め総職員数…587名(看護師…309名)に及んでいます。県北唯一の総合病院、『県北の砦』として、1次・2・5次救急を中心に対応すべく、365日、24時間の体制で、一丸となつて診療に当たっております。まさに、地域に根ざした、地域密着型の病院、地域の皆さまにとつての『我が町の病院』と自負しております。

今後の病院運営にあたっては、①地域の皆さまに安心・安全な医療の提供を継続すること
②健全な病院運営を継続すること
③病院建て替え計画の遂行が近々の最低限の責務と考えております。

病院の基本理念である『私たち

は、地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します。』にいつも立ち返って職務を全うして参ります。

外科医としてこれまで多くの手術を経験させていただきました。お陰様で患者さまを救えたこともあれば、力及ばず、願っても空しく救えなかったことも経験して参りました。これからの病院運営においても、思うようにいかないことも多々あると思います。病院も柔軟な変化を求められる時代になっております。課題も山積であることは重々承知いたしております。また、私一人の微力ではできないことには限りがあります。オール市立三次中央病院職員で立ち向かって参る覚悟でおりますが、皆さまの応援も大きな力となります。引き続き地域の皆さま、医療機関の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

(令和7(2025)年4月吉日)

新任挨拶



副院長 丸山 聡
まるやま さとし

このたび副院長を拝命しました丸山聡と申します。当院では平成13年4月から平成23年3月まで泌尿器科に勤務させていただきました。平成29年4月から再びご縁があり現在までお世話になっております。令和元年4月からは診療技術部長を兼任させていただいております。

市立三次中央病院に集う職員は、毎日患者さまのために自身の生活や人生をかけて懸命に働いていきます。10年以上勤務させていただいた私は、職員の日々の頑張りを肌で感じ実感しています。

職員全員が「この病院で働いてよかった」と思えるような病院を目指さなければ、患者さまに安全で最新の医療サービスを提供することはできません。また、職員が整った環境で前向きな気持ちで働けることが、病院の価値を高めて地域社会に貢献することに繋がります。そのような考えから、私は『市立三次中央病院全職員の物心両面の幸福を追求すること』を目標に掲げ、副院長職を遂行していきます。今後ともよろしくお願いいたします。



診療技術部長

原田 宏海

令和7年度より診療技術部長を命ぜられました。診療技術部は検査科、リハビリテーション科、臨床工学科、栄養科、歯科口腔外科、眼科、放射線科からなり、診療の屋台骨ともいえる役割を担っています。それを統括する重要な立場を任せていただくことになり、身の引き締まる思いです。私は決して誇れるような高い臨床能力や特別な技術を有しているわけではありませんが（ただ平均的ではありたいと思っています）、診療における横のつながり、すなわち診療科・職種等、組織の壁を超えて連携していくことに、少しばかりこだわりをもって診療に臨んでいたことを評価いただけたのではないかと自負しております。

私は当院に赴任して14年が経過しました。その間、目にしてきた診療技術部各部門は、必ずしも十分に整っているとはいえない環境ながら、これまで私が経験した大病院と比較しても、決して引けをとらない仕事となされているように見受けられました。

野球に例えますと、抜きだしたスラッガーやエースはいないかもしれませんが。しかしながら一発のホーム

ランを打つよりも、堅い守備を誇り、確実に犠打やヒットで繋げられるような選手、最新の道具ではないけれども、使い込まれた道具を大切にし、手入れしながらプレーする選手は多くいます。

地域の皆さまから、より一層の信頼をいただける診療技術部となるために、守備固めを行い、機動力（フットワークの良さ）を生かし、個々が習得した技をひとつに集結すること、スター選手を抱える在京のプロ野球チームとは異なった、まさに「広島」ならではのチームづくりをしていきたいと思っています。

私自身も粒ぞろいの選手たちや「観客」である地域の皆さまから、いつかは名コーチと評価いただけるよう精進してまいりますので、ご指導・鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

なお、観客の皆さま（地域の皆さま）と同様に、選手（職員）も新しい球場（病院）を夢見ています。



看護部長
認定看護管理者

佐藤 幸江

このたび、令和7年4月1日付で看護部長に就任いたしました、佐藤幸江と申します。平成6年に旧双三中央病院に就職して、現在まで当院の看護師として従事してまいりました。

私たち看護師には、常に患者さん一人ひとりのニーズに寄り添った、安心・安全で質の高い看護サービスを提供する使命があります。患者さんの背景、生活、生きがいを大切に、一方的なマニュアル通りの看護ではなく、その患者さんの価値観を認め、その患者さんにとって最善で最適な看護をとらえ、実践していきたいと思っています。

近年、少子超高齢化の進展や医療技術の進歩、大規模な自然災害や新興感染症の発生などにより、私たちが取り巻く医療環境は刻々と変化しています。時代や社会の変化に柔軟に対応できる組織づくりが必要になると考えます。

三次市においても年々高齢化率が上昇し、患者さんの背景も多種多様になってきています。院内における急性期看護だけでなく、患者さんが望まれる場所で安心した生活を送ることができるよう、医療と生活双方

の視点を持ちながら、一人ひとりの患者さんに寄り添った看護を実践していきたいと思っています。そのためには、地域の医療機関や地域社会との連携をより一層強化し、地域全体で患者さんを支える地域包括ケアシステムのさらなる推進に努めてまいります。

一方、看護師の人材不足は慢性化しています。当院でも、特に夜勤ができる看護師が少なくなっており、個々の看護師に係る負担が大きくなっています。質の高い看護を提供するためには、看護師がいきいきと働くことができる環境づくりが必要です。AIの導入やタスクシフト・タスクシェア（多職種への業務移管・共同化）による業務の効率化、ワークライフバランスの推進やキャリアアップ支援などにより、個々の看護師がこの病院で働き続けたい、と思えるような職場づくりにも取り組んでまいります。

備北地域の中核病院として「地域の皆様から信頼され、親しまれる病院」を目指し、看護部の理念である「地域の皆様に寄り添い、支えあう看護」を実践することで地域医療に貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしく願っています。

連載 がんの治療 35

遺伝子診断と治療

乳腺外科 医師 宮本 和明

市立三次中央病院外科の宮本です。

当院は広島県北部の中核病院であり、地域の皆さまが最新の遺伝子診断により新たな治療を見出すことができよう、がんゲノム医療体制を整備しています。今回は、遺伝子診断と治療について簡単に説明します。

遺伝情報全体をGenome(ゲノム、ジェノム)と呼び、細胞の中にある設計図のDNA(ディーエヌエー)がこれにあたります。DNAは細胞の中心にある核DNA(父親と母親から半分ずつの遺伝)と細胞質にあるミトコンドリアDNA(すべて母親から遺伝)から成ります。遺伝子の数は約2万個で、DNAの中に離れ離れに存在しています。

「がんの原因は

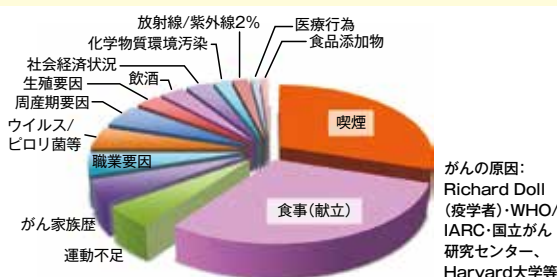
遺伝子の異常」(図①)

病気は遺伝子の働きが低下することにより生じます。ゲノムの異常、すなわち遺伝子に変異(DNAの傷≡病的バリエーション)があったり、老化に伴い生じるDNAメチル化異常(DNAの修飾の傷≡エピゲノム異常)があったりすると、遺伝子の働きが低下し、がんなどの病気が発症します。遺伝的に親から受け継いだ異常と、生まれてからの環境(タバコ、アルコール、焼きすぎたり揚げすぎたりした食品等)によって生じるも

のがあり、後者は予防が可能です。

がんの原因は遺伝子異常(図①)

遺伝的要因: 生まれながらの遺伝子変異など
環境的要因: タバコ、アルコール、食事、ウイルス感染などによる遺伝子変異・エピゲノム異常など



「遺伝性乳がんの例」(図②)

遺伝子異常の代表例が、遺伝性のがんで最も頻度の高い遺伝性乳癌卵巣癌症候群(hereditary breast and ovarian cancer: HBOC)です。人口10万人あたり300人程度がBRCA1あるいはBRCA2の生殖細胞系列(親から受け継いだ遺伝子)の遺伝子変異(病的バリエーション)を持つています。HBOCの診断は血液検査で可能ですが、2020年4月からBRCA1/2 遺伝子検査

遺伝性乳癌卵巣癌症候群(図②)

- ・BRCA1とBRCA2の生殖細胞系列の変異(病的バリエーション)に起因する乳がんおよび卵巣がんをはじめとするがんの易罹患性症候群
- ・BRCA1やBRCA2以外の乳がんあるいは卵巣がんの易罹患性に関わる複数の遺伝子が同定されており、広義の遺伝性乳がん卵巣がんともなることもある

【HBOC原因遺伝子】BRCA1、BRCA2、CHEK2、ATM、PALB、TP53

【臨床的特徴】 がんの発症リスクが上昇
乳がん80歳までにBRCA1で72%、BRCA2で69%
卵巣がん80歳までにBRCA1で44%、BRCA2で17%
前立腺がん(2~6倍)、膵がん(2.4~6倍)にもなりやすい

がんゲノムプロファイリング検査(図③)

がん関連遺伝子(遺伝子700個程度まで)を網羅的に検査し新たな治療につながる遺伝子異常(変異)を見つける



保険収載されているがん遺伝子パネル組織検査(図④)

2019年6月より保険収載

2023年7月より保険収載



【NCCオンコパネル】



【FoundationOne CDx】



【GenMine TOP】

として保険収載されています。がんや前立腺がんのリスクも判明することから、検診などによる早期発見治療への対策や、乳房や卵巣についての手術が可能となりました。さらに、治療薬として、ポリADPリボースポリメラーゼ(poly(ADP-ribose) polymerase: PARP)阻害薬であるオラパリブの使用も可能となります(治療適応等を見出す検査をコンパニオン診断と呼びます)。

となったのが、進行がんや原発不明がんなどに対して行われる、がんゲノムプロファイリング検査です。稀ながんや原発不明がんなどでは標準治療(現時点で確立されている最も良い治療法)が明らかでない場合が多くあります。進行がんにおいては、標準的な治療が終了した場合に、新たな治療薬を探索しなければなりません。このような対象について、手術などで保存している組織、あるいは進行した状況での血液を利用し、100から700程度の遺伝子を次世代シーケンサーで調べる検査が、がんゲノムプロファイリング検査です。これにより新たな治療薬が見出される症例が少しずつ増加してきています。この検査が保険適応できる施設は限定されており、当院では検査可能です。



手術支援ロボット 「hinotori™」

導入

はじめに

市立三次中央病院では、令和6年12月に手術支援ロボット「hinotori™」が導入されました。現在、第1症例、泌尿器科におけるロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術に向けて、ファーストチームによる準備が行われております。今後は泌尿器科の他の手術のみならず消化器外科、婦人科、呼吸器外科などでロボット手術が順次導入される予定となっております。

前立腺全摘除術は、開腹手術から腹腔鏡手術主体に進みました。腹腔鏡手術は術後疼痛の減少、術野を拡大できるため、精密な手術操作ができ、スタッフとの情報共有も可能となり、さらに出血も少ない等の多くの利点がありました。しかし腹腔内での鉗子の動きには制限があり、特に縫合などの高度な技術が必要であり、術者の手ぶれや疲労が生じたり、2次元の画面で奥行きがわかりにくいなどの欠点もありました。これら

泌尿器科医長

丸山 聡

の欠点を補う支援機器として、ロボット支援機器が開発されました。手術支援ロボット「hinotori™」は、川崎重工業とシスメックスの合弁会社メディカロイドが開発した国産型の手術支援ロボットで、手術アームの操作性の良さや鮮明な画像が特徴です。システムはサージョンコックピット、オペレーションユニット、ビジョンユニットで構成されています。

手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ) サージカルロボットシステム」



① サージョンコックピット

ロボットを操縦するコックピットです。術者はコックピットに座り、目の前に術野を高精度な立体画像で映し出し、腹腔内の鉗子を遠隔操作で自分の手指のように動かして手術を行います。人の手に比べて多関節で、手ぶれは少なく、腹腔鏡手術より精密な操作が可能になります。執刀医の疲労が少なく、操作も容易で上達が早いとされます。

サージョンコックピット



② オペレーションユニット

4本の腕を持つロボット本体です。1本は3Dハイビジョンカメラ、

オペレーションユニット



3本は執刀医の腕、助手の腕で把持、切開、縫合、クリップなどの様々な手術用途に合わせて付け替えることができます。カメラも執刀医が自在に動かすことが可能です。

③ ビジョンユニット

カメラからの画像の収集・処理を行い、鮮明な3D画像を術者に送ります。またこの画像は助手、看護師とも共有します。

前立腺がんの手術は2012年からロボット手術が保険適応となり、すでに広く普及しております。

おわりに

これまで三次中央病院では、腹腔鏡技術認定医2名が腹腔鏡手術を年間60例施行し、良好な手術成績を収めてきております。手術支援ロボット「hinotori™」は広島県では4台目の導入で、備北地区では初めての導入となります。先発のダヴィンチと比較してもひけをとらない手術成績、安全性を確保しております。初症例に向けて安全な手術導入ができるようにファーストチーム一丸となり準備していきたいと思っております。

検査よもやま話

尿検査編

くたかがおしっこ、されどおしっこ

検査科 技師長 池田 征幸
いけだ まさゆき

病院で行われる検査は多種多様です。レントゲンや内視鏡等、あげていけばきりがありません。今からお話しする「検査」とは検体検査、すなわち患者さんから提出していただく検体(尿・血液など)を用いた検査のお話です。

医師は患者さんを診察する時、正常とは違う異常を見つけることで診断をします。

おしっこに着目した尿検査の歴史は非常に古く、紀元前にまでさかのぼります。古代ギリシャやローマでは、医師たちが患者の尿を観察して病気の診断を行っていました。例えば、ヒポクラテスは「尿は体の窓」と言ったとされています。また「尿



(図1)

は身体からの贈り物」と表現する方もおられます。古代の人は体を巡った水分がやがて尿として排泄されることを知っていたのかもしれない。

中世ヨーロッパでは、尿検査は医学の重要な部分であり、医師たちは尿の色調・混濁・臭気・泡・量色などを観察して病気を診断していました。(図1) また、Uroscopist^{ウロスコピスト}と称する商人もいて、尿を用いて人の病状や時には運命までも占ったとされています。(図2) 糖尿病患者の尿に蟻が集まるという逸話も昔からありました。



(図2)

19世紀に入ると、化学分析技術の進歩により、尿の成分を詳細に分析することが可能になりました。この時期には、尿中の糖やタンパク質、尿酸などの検出が行われるようになり、病気の診断に尿検査は必須となってきました。また私がこの病院(当時は双三中央病院という施設名でした)に就職したころはテストテープという試薬(検査する薬剤)が染み込ませてある紙が張り付けてあるテープを尿に浸し判定を行っていました。(図3)



(図3) 尿定性試薬テストテープ

現在は自動化された尿分析装置(図4)が開発され、医療現場での尿検査がさらに効率化されました。尿検査は病気の診断や治療の監視に広く利用されており、その検査項目は50を超え、腎疾患や膀胱の病気のみならず、多くの病気の診断、治療、



(図4) 尿分析装置

早期発見に役立っています。また尿検査は反復検査が簡便で患者さんに苦痛を与えることなく実施できるので、今後も重要な検体検査であることには変わりはありません。そして現代医学において特筆すべきは、顕微鏡の発明・開発によって尿の中に浮かぶ細胞などを観察し、病気の診断に利用する検査が確立したことです。

当院では尿潜血・尿蛋白など尿を用いた検査を常時20項目、2024年で年間3万件近い検査をしています。

くたかがおしっこ、されどおしっこ。この液体に我々は感謝しなくてはいけないのではないのでしょうか。

市民公開講座を開催しました

令和7年2月26日（水）に三次グランドホテルにて、がん治療の普及・啓発を目的に市民公開講座を開催しました。

市民公開講座は、がん等に関する医療情報などを広く地域の皆さんに伝えるため毎年実施しているものです。

今回は、広島大学病院ゲノム医療センター・遺伝子診療科の檜井孝夫教授が、「がんゲノム医療で進化するこれからの大腸がんの予防と治療～地域で受けられる最先端医療～」と題し、ご講演いただきました。



当日は、約120名の市民や医療福祉関係者の皆さんにご来場いただきました。市民の方からは、「定期的ながん健診の大切さを感じた」「遺伝子(ゲノム医療)について理解が深まった」「患者でなくても利用できるがん相談支援センターがあるので安心である」など多くの感想が寄せられました。

今後も地域の皆さんが求める知識や情報を提供できるよう、市民公開講座を開催してまいります。



がん相談支援センターのご案内

がん相談支援センターは、がん相談員ががんに関する相談を受ける窓口です。患者さんやご家族のお気持ちを支え、各種相談をお受けしたり、日常生活を支援し、患者さんやご家族の不安を軽減するためのお手伝いをしています。お気軽にご相談ください。



以下のようなご相談に対応しております。

- がんについて詳しく知りたい
- 治療法について詳しく知りたい
- セカンドオピニオンについて相談したい
- 緩和ケアについて知りたい
- 仕事を続けられるか心配（仕事と治療の両立支援）
- アピアランスケアについて知りたい
- 他のがん患者さんと話をしてみたい など

ご利用方法

相談対応時間：8:30～17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）
 相談窓口：がん相談支援センター（1階 患者支援センター内）
 対象：がん患者さんやご家族、地域の方など、どなたでもご利用できます。
 相談方法：総合相談窓口にてお声をかけて頂くか、お電話ください。

【お問い合わせ】 がん相談支援センター（1階受付隣）⑱患者支援センター内）TEL(0824)65-0101

健診センター・救急外来窓口でもクレジットカード支払が利用できるようになりました

自動支払機でのクレジットカード支払い（外来診療費・入院費の支払い）に加え、「健診センター」と「救急外来窓口」でもクレジットカード支払いが利用できるようになりました。ご利用の際は、つぎの点にご留意のうえご利用ください。

- クレジットカードのみご利用いただけます。（スマートフォンでの電子取引はご利用できません。）
- クレジットでの支払いは、「一括払い」のみとなります。
- ご利用の際には、必ず暗証番号の入力が必要です。



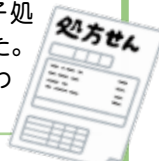
【お問い合わせ】医事課：TEL(0824)65-0101/Email:iji@city.miyoshi.hiroshima.jp

院外処方せん発行場所が変わりました

これまで院外処方せんは薬剤科窓口でお渡ししていましたが、令和7年3月19日から診察室でファイルに入れてお渡ししています。

会計終了後、薬剤科窓口で押印などの最終確認をします。ファイルに入れたまま薬剤科窓口にお持ちいただくようお願いいたします。

なお、令和7年3月31日から電子処方せんも取り扱い可能となりました。電子処方せんの利用申込やお問い合わせ等は薬剤科窓口にお越しください。



【お問い合わせ】医事課
 TEL(0824)65-0101(代表)/FAX(0824)65-0150



認定看護師

シリーズ

クリティカルケア
認定看護師
特定行為研修修了者
中井 晋平
なかい しんぺい

この度、大阪府看護協会において、特定行為研修を含めた10カ月間の研修を修了し、クリティカルケア認定看護師の資格を取得した中井晋平と申します。

クリティカルケア認定看護師とは「急性の危機的状況に置かれた患者さんに対応するスペシャリスト」です。私は今まで、看護師として力不足だと反省することが何度もありました。成長したいと考えたことが認定看護師を目指した理由の一つです。当院では集中治療室（ICU）や救急外来が主な活動の場となり、病気の重篤化回避や患者さんの早期回復を支援する役割を担っています。

また、特定行為とは「研修により高度で専門的な知識・技能を身につけた看護師が、医師による手順書をもとに行う診療の補助」のことです。私は①呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、②循環動態に係る薬剤投与関連、③栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の3区分、11行為の研修を修了しています。



人工呼吸器を準備している様子

ます。資格取得は大変でしたが良い成長の機会となりました。医療は日々進歩しており、これまで救命困難だった重症患者さんにおいても生命予後が改善しています。しかし、命が助かったにも関わらずICUで治療を受けた患者さんの多くが退院後に何かしらの障害を抱え苦しんでいることがわかってきました。これは、集中治療後症候群（PICS）と呼ばれています。具体的には、手足の筋力低下などで動けなくなる身体機能障害や気分の落ち込みといった精神障害、そして認知機能の低下があります。その影響は、ご家族にも精神障害として現れると言われます。こうした障害を少しでも予防・軽減できるように取り組んでいます。

みよしぶどう友の会

ウォーキングデー 参加者募集

みよしぶどう友の会では、『ウォーキングデー』を開催します。ウォーキングで健康づくり、仲間づくり、そして糖尿病などに関する知識を深めてみませんか？

会員でなくても健康に興味・関心のある方、大歓迎です！ボールの無料貸し出しをしております。ぜひ、お気軽にご参加ください!!（要申込）

日時 令和7年5月24日（土） 9時30分～12時00分（雨天決行）
集合場所 市立三次中央病院 健診センター2階講堂
内容 ノルディックウォーキング（みよし運動公園）／血糖測定（運動前後）
参加費 500円 申込期限 5月16日（金）



【お申し込み・お問い合わせ】医事課：TEL (0824) 65-0101 / FAX (0824) 65-0159 / Email: iji@city.miyoshi.hiroshima.jp

病院ボランティアを募集しています ～あなたの思いやりを患者さんへ～

院内でボランティアとして活動していただける方を募集しています。皆さんの善意の活動をお待ちしています。



《主な活動内容 外来患者さんへの支援》

- ・玄関での車の乗降のお手伝い
- ・診察申込手続きのお手伝い
- ・再来受付機の内操作案内
- ・待合でのお手伝い
- ・身体の不自由な方へのお手伝い（車いすの操作等）



《活動時間》

月曜日から金曜日（祝祭日を除く）8時30分～12時00分の内、都合のよい時間

※週1回～活動参加していただけます。

詳しくは、当院HP「ボランティア募集」をご覧ください。お問い合わせください。



【お申し込み・お問い合わせ】医事課：TEL (0824) 65-0101 Email: iji@city.miyoshi.hiroshima.jp